

成瀬お助けたい 日常の困りごとをお手伝い「心を結ぶサービスを続けたい」

2019年4月8日掲載

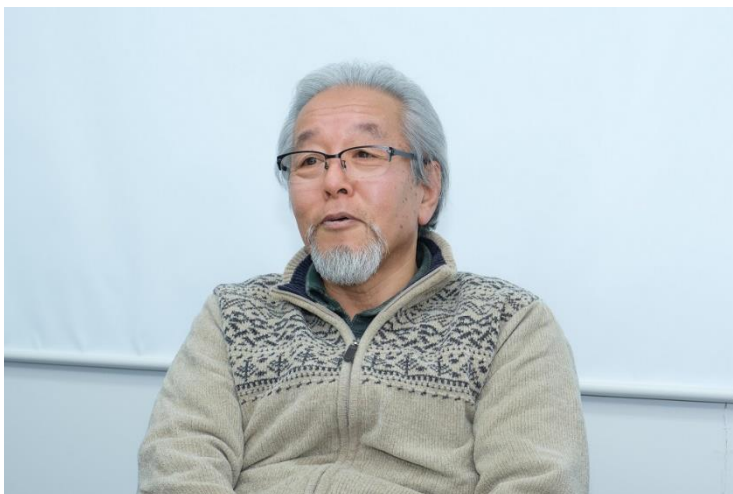


「成瀬お助けたい」のメンバー

市民・地域団体・企業などが自ら「やってみたい夢」を、賛同してくれる仲間を募り、地域とのつながりをつくりながら実現する「まちだ〇ごと大作戦」の一つの作戦として、成瀬地域住民の有志グループが2019年1月7日、日常生活の困りごとをサポートする取り組み「成瀬お助けたい」をスタートさせました。今回は、メンバーのみなさんに発足の思いと意気込みを聞きました。

「成瀬お助けたい」は、高齢化率が市の平均(26.6%)を上回る成瀬台1、2丁目を含む成瀬エリアで、高齢者や障がい者、子育て世帯などの、日常生活におけるちょっとした困りごとを有償でお手伝いするサービスです。利用者が、事務局に申し込むと、コーディネーターが登録されたサポーターズの中からサービスの内容に合った人を選び派遣し、サービスを提供するという仕組みです。利用料は1人30分500円(作業内容によって相談)です。

この取り組みは、グループの代表で立ち上げメンバーの玉木徹さんが「2年前に妻が入院した際、一人暮らしをせざるを得なくなって、すごく大変だった。これで足腰が悪かったら……」と思い、生活支援のサービスが地域には必要だと考えた」と発案しました。相談を受けた同じく立ち上げメンバーの丸岡将泰さん



「成瀬お助けたい」代表の玉木徹さん

は「シニアクラブでもこうした取り組みを考えていたのですが、なかなか動けていなかった」といい、具体化に向け昨年 3 月に講習会を開催し、準備会を立ち上げ、規約作りなどに取り組みました。その後、サポーターズ募集と利用者に向けての広報チラシを自費で作し、真夏の暑いさなかに準備会メンバーが分担してサービス対象エリアの全 4000 戸にチラシを配りました。その結果、サポーターズが続々と集まり、1 月 15 日現在 34 人が登録しています。さらに地元の医院や店舗、理美容院、福祉施設などにも回り、賛助会員として活動を支援し資金面での協力もしてくれることになりました。



立ち上げメンバーの丸岡将泰さん(左)と事務局の山垣淑子さん

こうして発足した「成瀬お助けたい」は〇ごと大作戦として決定され、年末の大掃除の依頼などを視野に入れ、試行サービスを 12 月 8 日から開始することとし、その利用者募集チラシを制作、配布しました。事務局の山垣淑子さんは「年末の窓ふきや庭の剪定、認知症の方がいるお宅の草抜きなど 14~15 件の問い合わせがありました。なかなか他では受けてもらえないような用件が多かったですね」と話します。

障がいのある方のお宅の蛍光灯交換を担当したというサポーターズの須山嘉蔵さんは「夜に駆けつけたのですが、蛍光灯がはずれていただけでしたが、家が暗くて本当に困っていて喜ばれた」といいます。地域からの依頼で公園の時計の清掃を担当した高橋智さんは「4メートル近い高さだったので、脚立では危ないと思い、長い竿にスポンジをつけた道具を妻と手作りしました」とエピソードを披露しました。庭木の剪定を依頼された古宮正雄さんは「シュロの木を切ってほしいと頼まれたのですが、そのお宅の道具では難しかったので、用意して行ってよかった。暖かくなったら除草もやってほしいと言われました」と振り返ります。山垣さんは「女性にお願いしたいという依頼



サポーターズの須山嘉蔵さん

も多く、ズボンの修理の依頼を受けた女性のサポーターズは、洗濯をしてから直してあげるなどきめ細かな対応をして非常に喜ばれたと聞いています」と笑顔で話しました。



サポーターズの高橋智さん(左)と古宮正雄さん

玉木さんは「成瀬エリアに昔から住む方の平均年齢は高いのですが、50 歳代の新しく住まれる方も増えてきました。『成瀬お助けたい』は 70 代のメンバーも多く、いずれは助けてもらう側になるので、若い世代にも加わってもらいたい」と語ります。「成瀬お助けたい」では、このサービスが永く「人と人の心」を結びサービスとして続いていくよう、引き続きサポーターズや賛助会員を募集しています。

「成瀬お助けたい」がスタートして 3 カ月近く経過し、取り組みが地域に浸透してきた結果、利用件数は 1 月 9 件、2 月 14 件、3 月 16 件(3 月 27 日現在)と徐々に増えてきています。

依頼内容も、クリニックの順番待ちや送り迎え、電球交換といった簡易なものから、畑仕事、庭の雑草取りといった肉体労働、セーター袖幅つめ、生垣の剪定、物置の蝶番取替えといった専門性の高いものまであり、34 名のサポーターズの中からサービス内容にあった人が派遣され、地域住民の困りごとの解決に奮闘しています。

3 月にはあらためて地域に活動 PR のチラシを配布し、住民による支えあいまちづくりを進めています。